

階上地区まちづくり協議会 第1回ワークショップ

2013年10月13日

於:階上中学校体育館

次 第

- 18:00-18:05 開会挨拶 (菊田篤会長)
- 18:05-18:15 「気仙沼の中での階上地区の役割」 (市議会議員 守屋守武)
- 18:15-18:30 これまでの報告会のまとめ (早稲田大学 土方正夫)
「はしかみ まちづくりの木」のご紹介 (シヤンティ国際ボランティア会 白鳥孝太)
ワークショップ進め方 (早稲田大学 土方正夫)
- 18:30-18:40 「はしかみ まちづくりの木」の確認
- 18:40-19:20 ワークショップ① アイデア出し (20分×2ラウンド)
テーマA 階上の産業(漁業・農業) ①
テーマB 地域防災と避難道(地域の見守り体制も含む) ②
- 19:20-20:00 ワークショップ② アイデア評価
- 20:00-20:10 発表 (各テーマ 5分)
- 20:10-20:15 今後の予定、閉会挨拶 (及川芳夫副会長)

漁業
報告会

漁協に、共同化による生産の早期再開をするために必要な経費を助成します

漁協は、養殖生産を実際に行う養殖事業者グループと生産委託契約を結び、養殖業者グループに必要な経費を支払う

養殖業者は養殖生産を行い、水揚物は国のものとなります

漁協は、水揚物を販売して得た代金により、国に事業費相当額を返還します

販売した代金が事業費に満たない場合、赤字分の一部(9/10)を国が助成します

意見交換会

漁港

何とか漁港の整備をしてほしい

シケになると漁港に船をつなぐ場所がなくなってしまう

1mでもやられるような壁では危ない。満潮時には水没してしまい使えなくなる漁港があり困る

防潮堤

防潮堤のせいで(海岸で出来る作業と陸にある小屋で作業内容が違うので)海岸での作業が出来なくなってしまう

漁港防潮堤の要望が実現されない。作ってほしい

防潮堤をどこでつなぎ合わせるか(疑問)

行政には安全な防潮堤を作ってほしい

行政

行政の管轄が縦割りで分かれているので計画がうまく進まない

説明会で縦割りのこと言っているが解決しない

県と国の担当部署による合同の話し合いは出来ないのか?(疑問)

漁業も農業も地域でしっかり行いたい

復興庁は査定をしているだけ

75%の補助をすること以前に、お金の配分が間違っているのではないか

グループ補助金制度 自分たちで動いて作った(国は最初はやりたくないといったイメージだったが、苦肉の策で行ったのでは)

仮設住宅の生活

今までは海辺で生活していてすぐに海を見れる状況であったが、今は仮設住宅になってしまい車で1日5回(1日の総走行距離は約40km)も往復している

海への移動が困難

海から離れた生活が困難

まちづくり

まちづくりは住民の声でやっていくと皆動ける
行政のコミュニティよりみんなでまとまってやるのが大事
手本になるようなまちづくりをやってほしい
元の状態よりも良くなることを、まちづくりで考える

番屋

番屋みたいなものがあっても良いのではないか
番屋は漁師たちが情報交換をするような場所なので、漁業関連の人たちが集まれるような場所を
番屋に併設したら良いのではないか

その他

海の瓦礫撤去のせいで海の水が濁ってしまっている
原発の汚染水が流出した問題で、風評被害がある
かさ上げは来月のから工事が始まり、26年度末に完成する予定
イワツキは3040代の人々が後継者となって若い人が増えた

農業

報告会

基盤整備事業を活用した農地の集約化
生産組合等受委託組織の整備組織
階上ブランドの確立
貸し農園等の整備
財務基盤の強化を図るために「農水産業協同組合貯金保険機構」及び「社団法人ジェイバンク支
援協会」13億5千万円の優先出資を行った
「農山漁村地域復興基盤総合整備事業」で圃場整備を推進調整中
換地・評価と営農計画について協議調整中
杉の下工区は意向調査結果をまとめ、圃場整備計画(一定区域・設計図について推進委員会で協
議・調整中
水稲に関しては従来の家族型経営から委託型経営へ
若い担い手(後継者)の育成
退職者の新規就農受け入れ
儲かる農業経営へ

意見交換会

農産物販売

自分たちで作った作物を自分たちで売る仕組みが必要
イチゴをうまく生かした食べ物を売り出す
売り場は避難道の近くに(道の駅のような場所に)
6次産業化、自分たちで作って売る状況を
階上の直売所を拡大し、農産物・海産物を販売し、レストランも併設

販売ルートの確保

観光

作るだけでなく、その先の工夫を(修学旅行の農業体験等)

階上ブランドの確立

階上には人に足を止めてもらえる場所がない

農協

農協に販売の助けをしてほしい

農協の積極性がないように感じる

後継者

担い手が不足している

農地・宅地整備

休耕田の利用

その他

農業法人を国の援助で立ち上げる

道の駅とは差別化をはかり、避難所を兼ねた場所に

海でとれたものを含めて、農業祭を行う

階上の現状はパチンコやコンビニが牛耳っている状況

漁集・防潮堤

報告会

意見交換会

避難道

45号線を拡幅することで渋滞を緩和させる考えがあるが、震災時に車が集中してしまうと結局、拡幅したところで渋滞が起きる

被災時には冠水をしてしまって通れない道路が多くあった

45号線の立体交差が実行されない限り、避難道は完成しない

45号線が混み合っていると被災時に海から山へ逃げる事が出来ない

避難道という名称の道路を作ってしまうと有事の際に、「避難道」という名前に釣られて人が集中しそう

車だけでなく徒歩による避難も想定してまちづくりを考えてほしい

45号線を介さない避難道を作してほしい

有事の際は逃げるのが一番。まずは避難道を作ってもらいたい

45号まで逃げられる道(北陸道までの乗り付け口)がほしい(駐車場も)

基幹農道からどう車を逃がすか(有事の際は渋滞してしまう)

避難道を作してほしい(観光客を守る為)

車がすれ違える道路整備をしてほしい

防潮堤

防潮堤が完成すると、海を利用できなくなってしまう

防潮堤を建てたところで、防潮堤を超える津波が来たら意味が無い

防潮堤が仮に出来るとしても低くあってほしい

津波から仕事道具を守りたいので防潮堤を設置してほしい

防潮堤は住民の意見を尊重して、避難道を作れば不必要だと思う

コンクリートの堤防は維持費が将来にわたってかかり、負担になる(防潮林ならそうでは無い)

堤防は逃げる為の時間を稼ぐ為のものだと考える

(堤防を作らなくても)逃げることで、昔の景観を守れると思う

ハワイには地震も津波もあるが防潮堤は無い(もしあったらハワイに行きたいと思うか?)

小高い山があって、それに木が生えていれば防潮になるのではないか?

木を植えて防潮にするのはいいなと思った

防潮堤によって海が見られなくなるのではないか

階上だけに堤防ができ、内湾に出来なかったら、内湾の被害が甚大になってしまうのではないか

防潮堤の裏の整備もしてほしい

防潮堤を作ると潮の流れが変わる。安全面だけでなく、地域の実情を踏まえたものにしてほしい

新たに防潮堤を作るのではなく、復旧するだけで良いのではないだろうか

観光

気仙沼市内の共徳丸の話が俎上に上がるが階上にも震災の爪痕は沢山残っている

伊達政宗ゆかりの石碑が流されてしまっているが未だに回収作業は行なわれていない

市役所が観光を一押しにしているが、実際の動きとの間にギャップがある。市役所の動きが遅いように感じられる。

岩井崎に奉られている相撲取りの生家が危険区域に指定されてしまっている。観光資源なのに利用できていない

岩井崎周辺に民宿を作りたい

岩井崎に観光客を呼び、地元を潤わす為の何かを

観光客は自然を求めてくると思う

自然景観を活かし、観光地にふさわしい防潮堤を

砂浜が戻ってきた。海水浴が出来る(昭和30年に堤防が作られ、浜が無くなったが、津波により堤防が流された事で砂浜が戻ってきた)

階上は養殖と観光がメイン

早く昔の海にして。早く浜に行きたい(お伊勢浜、大谷海岸)

潮吹きの高さが低くなってきて寂しい(地盤沈下のせい)

その他

向洋高校の旧校舎を避難タワーとして利用(耐久性に関して疑問)

(45号線より内側に)避難山を作る

山側に住んでいる人たちにもまちづくりに積極的に参加してもらいたい。

地元の意向で跡地利用を決めたい
作業用道路を残してほしい(生活用道路が必要)
松の木再生(早急に)

防犯・消防・交通安全

報告会

防犯

青色パトロールカーで仮設住宅重点に広報パトロールの実施
新入学児童の不審者対策の見守り隊出動
市民運動会、みなと祭り、自治会盆踊り、元旦参拝などの警備
春・夏・秋・年末年始の4シーズンに全国地域安全運動
偶数月は振り込め詐欺防止キャンペーンの実施

消防

交通安全

意見交換会

防犯

地区の現状として組織に頼りすぎている
防犯協会も震災の影響で規模が縮小されたため、活動が制限されているためPTAや個人個人の目がより必要
PTAが中心となって防犯・防災マップを作る
高齢者や障害者の方を有事の際に救助するために、コミュニケーションをとるために自分から心を開いてもらう必要がある
高齢者や障害者の個人情報の把握、要介護者の把握が必要(悪用の危険性)

消防

消防団の屯所は津波によって流されてしまい設備規模が縮小されてしまっている。新たな移転先である程度充実した設備を確保する必要がある
消防車が立ち入ることができない場所があり、具体的に立ち木の刈り払いなどの必要性が出てき
防災無線が地区全体に聞こえない現状があり、全体に聞こえるように調整をするか、個人個人にお金をかけてでも無線を配布するべきではないか
震災時に1番大事だったものは「水」であり、その水を高齢者や障害者宅を優先に、うまく配布するシステムが必要
避難場所として新たにホヤポーやの避難タワーを岩井崎につくりアトラクションとしても使うのはどうか

交通安全

交通安全協会はボランティア活動の1種であり、そもそも震災前から活動の規模は限られていたが、その後その規模はさらに縮小された

最近では工事車両などの交通量の増加が活動中の事故の懸念を高めている

万が一のために保険をかける必要があり、活動が制御される

道路の拡張もしくは拡幅の要請

ただの復旧だけではなく路線を変えるべきではないか

避難道を作る場合も三陸道と直結させてほしい

道路が狭すぎるために子供が安全に学校に通うことができない(かやはら線・海蔵寺下・烏子沢)

工事車両の交通量の増加が著しく、安全面や騒音の面で多くの問題を住民は抱えている

工事車両の中で常軌を逸脱している場合は車両番号を確認し、事務所に連絡すると即座に対応が受けられる

小学校・中学校・PTA

報告会

避難施設としての屋内運動場のガラスに飛散防止シートを

小学校屋上に安全フェンスの設置と屋上までの非常階段の設置

災害倉庫としての体育館とプールのトイレ等の改修と利活用

防災備蓄倉庫の設置(済)

学校周辺の通学路に太陽光パネル発電の街灯を設置(夜間避難・停電時の対応)

階上小から階上中に至る市道の道路幅の拡張(避難道路の確保・渋滞解消)

階上公民館や岩井崎プロムナードセンターを津波体験語り部、防災学習、地質調査体験、スローフードを学習できる施設として利活用(観光集客・学習体験旅行の誘致)

地域の防災学習拠点としての施設・研修場所の設置(震災前の階上地区紹介、復興に至るまでの写真展示、防災教育成果の展示、復興事業の概要展示、震災遺構の紹介)

意見交換会

向洋高校跡地利用

県立高校のキャンパスが階上のまちづくりのキーになる

塩田がありアッケシソウが生殖していた(向洋高校の跡地)

多目的グラウンドにしたい

歴史の資料としての土地の整備

保健所があると、その近辺は人口が増えるので、その付近に公園などの集まる場所がほしい

地図上の水色のエリア(津波浸水区域?)に公園はつukれない

里海里山⇒公園

公園がほしい(集団移転のためのだけではなく、みんなが利用できる公園)イメージ:新城の公園みたいなもの

一人でも二人でも行って安心できるような場所(公園)

バスケットボールが子供たちが唯一集まる場所(みうらのうら)

三浦歯科の裏は子供も大人も安心して利用できる場所

向洋高校北校舎を避難タワー(ビル)として残す

公園

慰霊塔を整備して、湿地帯を活かしてジオパークに
自然を観察できる公園が必要
海つり公園。浸水域を利用して
プロムナード再建！！(総合的な遊び学び)
総合公園が欲しい
競技場は市全体でやるべきだ
子供がノビノビと遊べる場所が欲しい
公園は小学生運動場は中学生が使う
中学校の仮設運動場はそのまま残してほしい
グラウンドの維持費がかかるので、各地域に緑地公園がほしい

道路(通学路)

車1台がやっと通れるところで通学している
昔の道路がそのままある
人がいない道の方が街灯が必要
今はダンプが数多く、狭いので、小中学生は怖い
舗装していない道が多い
雨が降ると砂利が流れてしまう
通学路に歩道がなく子供たちが危ないので整備
駅前の交通環境を整備してほしい
駅前ロータリーが使いづらい
2車線にしてほしい。交通量が増えている(すれ違えないので家を通して交互する)
(PTA)歩道がつけてほしい。事故が起きないのがおかしい(緊急)

その他

ゴルフ場の解放もしてほしい
ゴルフ場を公園に
三陸道スマートIC必要(防災面観光面)
農家の後継者問題
子供が子供をまとめるシステムがほしい

海への森をつくろう会

報告会

海への植物観察会、地質観察会、植生調査の実施・協力
海への森の植樹祭開催、各植樹祭への参加
ボランティア受け入れ、ボランティアツアー実施
海へのチャリティコンサート開催

意見交換会

植樹

植樹の木の種類はなにがよいか

何本植樹すればよいか

植樹の土地はどうやって決めるのか

震災のとき人を助けた木がある

将来的にどの辺りまで木を植樹したいのか

堤防を土盛りにしてその上に植樹する方式

防潮林が海にある。岩井崎も地盤沈下していて、土地の権利関係もあやふや。何処に植えればいいのかわからない

インフラ整備

5時30分～6時30分まで国道の渋滞が酷い。道路の整備が必要

内陸の人達も興味を持てるような施設を作るべきでは

岩井崎の観光資源はすばらしい。(化石とか)それを活かすにはまず道路や避難タワーの整備

向洋高校に避難タワーがほしい

45号線と線路の上を通る橋を作るべき

避難路の整備＝心の道

海と山

山の方に福祉施設や子ども関係の施設を作れば内陸側と海側の関係がよくなるのでは

山側と海側で温度差が激しい。全体で盛り上げていけないといけない

山手側の民家の土地を、緊急時駐車場として使えるようにしたほうがいい

山側と海側で防災協定を結ぶべき

その他

空いた土地にオートキャンプが欲しい。土地はどうなるかわからないけど

突きん棒漁を復活させたい

ジオパークをもっと大きくしてほしい(汽水域)

国・自治体の方向性がわからないから、何を言っているかわからない

大谷は小さいからコミュニケーションが密。階上はまだまだ

石碑が倒れたり移動してたりするから、人通りの多い場所に戻したり直したりしたほうがいい

テーマ		番号	
なにを			
なぜ			
どこで			
いつまでに			
だれが			
どうやって			